

「鼎」(KANAE)

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁

十分な練習量と、練られた戦略が、旭川高専「Untyred」に優勝をもたらした!



優勝：旭川高専「Untyred」

ロボコン大賞：航空高専「大食鉄鋼人」

観客を魅了した豪快な機構で、ロボコン大賞は航空高専「大食鉄鋼人」の手に輝く!

2003年11月23日、全国の高等専門学校62校から選抜された24チームが、両国国技館(東京都墨田区)に集った。今年で16年目を迎える「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」に挑むためだ。今年の競技課題「鼎(KANAE)」では、競技フィールドにある3つの回転盤を奪い合う。形や重さ、性質の異なる3種類のオブジェを回転盤に貼り付けて、その重さ

で回転盤を自分のチームの色に傾けるのだ。階段の上り下りや、オブジェの貼り付け方など、いくつもの要素が絡み合う今回の競技では、実にさまざまなロボットが登場することとなった。そして、その中でも傑出した旭川高専と航空高専が決勝を争い、名勝負で観客を酔わせた。



相反する機構と戦法の旭川高専と航空高専は、豊富な練習量に裏付けられた“沈着冷静”という共通点があった

今年の競技課題「鼎(KANAE)」の競技フィールドは、大きく二つに分けられる。

ひとつは、階段を下りたところにある、競技フィールド全体の半分以上を占める

競技ゾーンである。円盤を回転させるためのオブジェも球体と立方体の2種類がそれぞれ40個以上用意されている。

もうひとつは、階段をいったん下りてから、同じ階段を再び上りきったところで初

めて進入が可能となる、階段上の競技ゾーンである。ロボットがすれ違うことすら難しいほど狭い場所であり、円盤を回転させるための立方体オブジェも左右それぞれの上台に16個ずつしか用意されてい